＜令和2年第１回香芝市総合教育会議（議事録）＞

1.開催日時　　令和2年３月23日（月）13時30分～14時45分

2.開催場所　　香芝市役所 5階 委員会室

3.出 席 者　　〇構成員
吉田市長、村中教育長、田中委員、三岡委員、關野委員、山田委員
〇意見聴取者
株式会社ファインコラボレート研究所
〇事務局及び説明員
企画部長、総務部長、教育部長、教育部次長、教育総務課長、学校教育課長、こども課長、教育部総務課主幹

4.議　　題　　(1)学校におけるICT環境及びエアコン機器の整備について
(2)その他

5.議事内容

〇市長

冒頭だけマスクを外していただきます。改めて皆さんこんにちは。定刻なりましたので、令和２年の第１回総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。本日は教育委員会の皆様方、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本来であれば、春らんまんという時期を迎えるにあたって、楽しい生活を送るはずでありますけれども、卒業式等もご出席いただいた中で感じ取られていますように、このウイルス対策、感染症対策ということで、学校の臨時休業、並びに香芝ホール等の休館、こういったことが続いています。全国的にもまだ、被害が拡散しているという状況でございます。今週から小学校の運動場の開放、中学校の部活動の開始等々、オープンエアーのところについては、一定の時期を過ぎたようには見えますが、まだまだ予断を許さないというところであります。何とか、春の入学、そして新学期のスタートが万全に取れるように、やり過ぎかもしれませんが何としても被害を出さないようにしていきたいと思っています。今日現在、我々の取った手段が、功を奏すると信じたいと思います。感染者ゼロ。これを一つの道しるべにして、ここでも取り組んでいきたいと思います。

一つ、良い話がございまして、実は私はですね、先だって高市総務大臣に、特に休業を余儀なくされているパートタイムの方々に対しましても、非常に収入の減などか見られるということを訴えました。何とか４月、５月の小中学校の給食費を半額、また無償にできないかというお願いを直接しました。もうすでに先週、文部科学大臣に直接上申していただいて、本日、総務省として、文部科学省に、この案を伝えていただいて、正式に発表したということです。ですから、予算措置がどうなるかはわかりませんが、一旦こういう方向で動き出したと。こういう意見がですね、総務大臣から文科大臣に伝わって、正式見解として発表されると非常に嬉し

いなと思いますし、これが具現化されれば、なおいいなと思います。今こういう過程ですので、また実現の際には、まともに喜びたいし、さらに継続してサポートしたいなという思いです。

ちょっと話が長くなりましたが、本日の議案議題につきましては、学校施設等の将来計画ということであります。香芝市における教育の現場をどのようにデザインしていくのかというところになりますけども、本日、教育長並びに教育委員の皆様と協議して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

以上、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いします。

それでは、案件に移ってまいります。香芝市学校施設等長寿命化計画についてでございます。教育委員会事務局の案の作成をお願いしておりましたこの計画につきましては、すでに本年の 2 月 24 日から今月 3 月 8 日までの間、市民の皆様にパブリックコメントを募集させていただいているところであります。これらの経緯を踏まえて、委員の皆様の意見を頂戴したいと考えているところでございます。それでは、計画の概要につきまして、事務局の説明を求めたいと思います。よろしくお願いします。

〇教育総務課長

失礼いたします。それでは、お手元の資料をもとに、説明を始めさせていただきます。

まず、この計画の策定の趣旨といたしましては、今後、少子化が避けられない中、また、校舎等の老朽化が進み、維持コストの増加が懸念される中、義務教育の機会均等や水準を維持した上で、持続可能な学校経営を行うため、今後の学校施設のあり方について定めたものでございます。本日は、香芝市の状況を調査・分析し、計画案を作成いたしました、株式会社ファインコラボレート研究所より、代表取締役の望月 伸一様と、土肥 千絵様に出席していただいております。それでは、土肥様より、計画案の説明をさせていただきます。

なお、申し訳ございませんが一部資料の訂正をお願いいたします。計画案の 36 ページでございます。幼稚園、保育所等の整備スケジュールでございますが、幼稚園の真ん中、中段でございます。三和幼稚園、令和 6 年に保育棟の部位改修とございますが、これ誤りでございます。削除の予定でございますので、消しておいていただきたいと思います。

それでは、土肥様、よろしくお願いいたします。

〇株式会社ファインコラボレート研究所

それでは、計画書の内容をご説明させていただきます。座ったままで失礼いたします。

表紙をめくっていただきますと目次があります。こちらは第 1 章から第 6 章まで全体で 6 章構成となっておりまして、参考資料に建物情報一覧表ということで、今回の対象施設の建物情報の一覧が記載されております。

ではまず、1 ページをご覧ください。第 1 章でございます。計画の位置付けでございますけれども、この長寿命化計画は、平成 28 年 11 月に策定されました香芝市公共施設等総合管理計画を上位計画としたものでございまして、個別施設

ごとの具体的な対応を示した計画でございます。国の方で、令和 2 年度中に策定するということを要請しておりまして、文科省の場合、策定が補助要件というふうになっております。 2 番目に、対象施設でございます。今回、小学校 10 校、中学校 4 校、それから市立幼稚園・こども園 9 園と保育所の 5 園を対象としております。計画期間は 2020 年から 2059 年までといたしまして、一期 10 年間を区切った計画となっております。

第 2 章からは、学校施設等を取り巻く現状と課題ということで 2 ページ以降になります。こちらまず実態というふうになっておりまして、2 ページ目は、小学校と中学校の対象施設一覧が載ってございます。それから 3 ページ目に関しては、幼稚園・こども園・保育所の対象施設の概要が載ってございます。4 ページ目は、学校の設置状況の推移ということで、香芝市では小学校 4 校、中学校 1 校から始まりまして、児童生徒の増加に合わせて学校の設置が行われてきた経緯を表現した資料となっております。

5 ページ、6 ページをご覧ください。こちら今回の対象施設の配置状況です。左側の 5 ページが小学校・中学校でございまして、地図の下地が中学校区で色分けしてあります。それから黄色い線が小学校区というふうになっております。香芝市の場合、小学校区と中学校区が概ね一致しているといえると思います。右側の幼稚園・こども園・保育所は、下地は同じように中学校区で色分けしてありまして、黄色い区分は幼稚園区というふうになっております。それから、7 ページ、8 ページをご覧ください。こちらは地域状況の把握となっております。地域の開発ですとか人口変化、まちづくりの方向性というのが、学校のあり方と密接に関係しているだろうということで、こちらの状況を把握いたしました。7 ページは地域区分ということで、都市計画マスタープランで設定されている地域の区分をお示ししております。右側の 8 ページは地域別の人口状況ということで、地図の色分けですけれども、2000 年から 2015 年までの人口変化率を示したものになっております。これを見ますと、例えば関屋周辺地区では、すでにブルーが濃くなっておりまして、人口減少が始まっていて、今後もその減少が続いていくという予測となっています。その一方で、志都美の周辺地区ですとか五位堂周辺地区では、住宅開発などに伴って、赤色が目立っていると思います。今後も 10%以上増加予測というようなことがわかると思います。また、同じ地域内でもすでに人口減少が始まっているエリアもあれば、まだ増加が予測されるエリアもあるというような形で、エリアによって状況が異なっておりますので、学校単体ではなくて少し広い視点で学校のあり方を考えていく必要があるかなということを考えております。

9 ページからは児童生徒数及び学級数の推移となります。9 ページは、市全体の児童生徒数の推移でございまして、緑色の折れ線が児童生徒数全体、青色が児童数、ピンク色が生徒数の変化です。香芝市の場合は平成 25 年が児童生徒数のピークとなっておりまして、現在は若干微減傾向となっております。令和元年時点で 7674 人ということで、平成 25 年から約 6%減少しております。社人研の推計の方法に準拠いたしまして、将来人口を推計いたしました。そういたしますと今後 15 年後まで、減少傾向が続いていきまして、約 3 割減少していくというような予測の推計結果となっております。その後は少し増加に転じておりますが、これは近年まで、住宅開発で急増してきた部分が影響しておりまして、このあたりは

不確定要素でございますので、継続的に変化を把握しながら、この見直しを図っていくということを、引き続きやっていく必要があると考えております。

10 ページからは学校別のグラフとなっております。小学校別ということで、上側のグラフでピンク色でマークしてある旭ケ丘小ですとか、二上小などは、この急増というのがよく目立つと思います。それに対して下側の学校、五つの小学校はほぼ横ばいで推移しているというような形で、学校によってその傾向も違っているのが確認できます。

11 ページは中学校の生徒数の推移になっております。それから 12 ページは、学校別学級数の変化になります。各学校ごとにピーク時から現在、現在から 30 年後の将来に関して、学級数の変化をお示ししたものとなっております。学校の四角ですけれども、黄色が小規模校を表していまして、中の数字が学級数を表しています。令和元年現在ですと、小規模校が 2 校ということで、小学校の場合 30 年後もその状況が変わらないということがわかると思います。それから、ピークから将来の学級数の変化が、かっこ書きで書いてありますが、10 学級以上減っていくという予測となっているのが全部で 5 校ございます。それから、学校名が黄色に塗られている学校があるかと思います。これは今回、各学校の諸室の活用状況を確認いたしまして、普通教室・特別教室・管理諸室以外で、資料室ですとか会議室ですとか、もともと普通教室だったところを他の目的で使っているなというのをチェックした結果を表しております。黄色く塗っている学校は特にその数が多い学校でして、集めると 1 棟分ぐらいあるというような状況を示しています。

裏側 13 ページが中学校の状況で、同じ内容でございますけれども、中学校の場合は学級数のピークから将来の変化、特に香芝中学校はマイナス 27 学級ということで大きく減少が予測されているということがわかります。4 校中 3 校で、すでに空いている教室がありそうだということを確認しております。

それから 14 ページからは、幼稚園・こども園・保育所の児童数の推移になります。上側のピンク色のグラフが幼稚園・こども園でございまして、令和元年現在、定員に対して約 60%の入園率というふうになっております。下側のブルーのグラフが保育所の園児数の推移で、令和元年現在では 107%というような入園率となっております。

15 ページと 16 ページは、学校と同じように施設別の変化を整理したものになっております。過去から現在までの変化でございまして、学級数ではなくて、児童数の変化となっておりますが、15 ページを見ていただきますと、真美ヶ丘東幼稚園ですとか、認定こども園化した鎌田幼稚園では、近年までも増加傾向にあるというようなことが確認できます。右側は保育所ということで、保育所は幼稚園に比べて減少数も少ないのと、プラスの保育所が多いということが確認できると思います。

17、18 ページは、施設別の在籍園児数の推移と今後の見込みの資料となっております。こちらは、令和元年 7 月に市で発行された公立幼稚園及び公立保育所の再編等に関する基本方針から抜粋した内容でございます。四つのグラフは、中学校区ごとにまとめたものとなっておりまして、左側のページの香芝中学校区、香芝東中学校区は保育ニーズがまだありそうだということがわかります。それに対して、右側の香芝西中学校区、香芝北中学校区は、今後も減少傾向が見込まれ

るというようなことがわかっております。
ここまではソフト面の話でございまして、19 ページからは建物の保有状況ということで、ハード面の実態・課題になります。まず 19 ページですけれども、小学校 10 校、中学校 4 校、幼稚園・こども園 9 園、保育所の全部の保有棟数が 121 棟で延床面積が 10.9 万平米です。下側の築年別整備状況のグラフをご覧ください。横軸が建築年度で、縦軸が延べ床面積となっております。真ん中に赤い線がありますけれども、こちらが旧耐震基準のラインでございまして、1981 年以前の旧耐震基準の建物が 42%、新耐震基準の建物が 58%となっております。後ろ側がピンク色で塗られているところが築 30 年以上というところです。ここだけで 75%ということで、30 年以上経過しているものが多い状況がわかると思います。それから直近の 20 年間を見ていただきますと、小中学校の建て替えなどは行っておりませんで、幼稚園と保育所の建て替えが行われてきたということはわかると思います。
それから 20 ページからは、老朽化状況の把握でございます。こちらの詳細なバックデータが参考資料にございますので、参考資料の 5 ページと 6 ページをご覧いただけますでしょうか。こちらは建物情報一覧表と呼んでおりまして、中学校区ごとに整理をしております。施設のマネジメントに必要な情報を集約化して、一覧化したものでございます。文科省の解説書にもその見本がございますが、その内容をより拡大して実用的なものにした内容となっております。この一行が各学校の 1 棟を表しておりまして、左側の黄色い部分が建物基本情報ということで、延べ床面積から建築年度、現在の築年数などを整理しています。それから、その隣の紫色のところが、構造躯体の健全性となっています。こちらは耐震診断時のデータを用いて、圧縮強度が 13.5 ニュートン以下のものがないかどうかを確認いたしまして、あった場合は要調査ということで、長寿命化改修の前に詳細調査をするという整理としております。学校に関しましては、五位堂小学校が 1 棟、13.5 ニュートン以下でございましたが、それ以外のものは長寿命化改修できるという結果でございました。また、ちょうど参考資料 5 ページのところに、保育所のところで要調査とありますが、S 造のものなども詳細調査が必要ということで、そういったものに関しては要調査と整理をしております。それから茶色いところは躯体以外の劣化状況となっております。文科省の解説書では 5V でしたけれども、香芝市では 10V までに広げて評価をしておりまして、A から D の 4 段階評価となっております。シート D は茶色くなっておりまして、劣化が見られる部位ということになります。例えば 1 枚めくっていただきますと、参考資料 7 ページ、関屋小学校は躯体以外の劣化状況のところが全体的に茶色くなっておりますので、どの棟の劣化が進んでいるというようなことが確認できるかと思います。
それではまた 23 ページの方に戻っていただけますでしょうか。この内容を主な劣化状況ということで、写真にて少し整理をしております。C、D 評価もあった部分に関して、例えばこういうところが劣化が進んでいるよということを、こちらのページで示しております。
それから、24 ページからは施設関連経費及び将来施設経費の推移ということで、これまで施設に使ってきたお金を整理したものになっております。24 ページは小学校・中学校でございまして、平成 26 年から 30 年の 5 年間で、総額 10.2

億円、年平均にしますと 2 億 400 万円使ってきたということになります。グラフのピンク色は耐震補強で、それからその下の水色のところは増築ということでのお金となっています。それから紫色は大規模改修ということで、香芝中学校の体育館のところで使ってきたというようなことが確認できます。

同じように 25 ページで、幼稚園・こども園・保育所の内容を整理いたしました。5 年間の総額が 9.7 億円で、年平均にいたしますと 1.9 億円ということになります。小中学校、それから幼稚園・こども園・保育所合わせますと、年平均 4 億円がこれまで使ってきた実績額ということになります。

それに対して、26 ページからは将来更新費用の推計を行いました。上側の「ア 建替え型」は、すべての建物を築 50 年で建て替えた場合でございます。40 年間で総額 443 億円、20 年間では 298 億円ということで、年平均にならしまして実績額と比較すると、3.7 倍乖離しているという状況が建替え型ございます。下側の「イ 長寿命化型」は、すべての棟を建築後 40 年で長寿命化改修して、80 年まで使用するというふうにしたものです。そうしますと直近の 20 年が 188 億円まで下がりますけれども、年平均で実績額と比較すると 2.4 倍ということで、まだ乖離がありますのと、長寿命化改修の時期を同時に迎えますので、直近に多くの整備費用がかかるというようなことになっています。なので、長寿命化をしますと建替え型よりは、コスト縮減が図れますけれども、まだ実績額と乖離がありますので、単純に建て替え長寿命化といったハード面の対応だけではなかなか難しいなということはここまでで確認をすることができます。

27 ページからが第 3 章になります。第 2 章までではハードとソフト両面から実態と課題を整理いたしましたが、これを受けて、今後の整備の方針をお示ししたところです。「1. 目指すべき姿」とありますが、こちらは教育の方向性といったところを抱えている内容です。27 ページが小学校・中学校でございまして、アとして「小中連携，一貫教育の実現」という内容を挙げています。香芝市では、0 歳から 15 歳まで切れ目のない総合的な子育て支援というところを目標としておりますので、就学前から義務教育 9 年間を見通した教育活動の展開を目指すというのを一つの柱といたしました。二つ目が、イの「学習空間・生活空間の充実」ということで、多様な教育ニーズに対応するために、個々の児童生徒に応じたきめ細かな指導ですとか、ICT 機器の活用など、学習活動に柔軟に対応できる環境づくりを進め出すというのを二つ目に挙げています。三つ目が、ウの「コミュニティスクールの推進」ということで、香芝市では、2017 年度から学校運営協議会の設置を進めていますけれども、今後も、義務教育 9 年間の学びを支える仕組みとして、一貫教育とコミュニティスクールを組み合わせて、学校が地域の活動拠点となっていくというようなことを目指すというふうに整理をしております。目指すべき姿の実現にあたっては、児童生徒数の変化に合わせて、適正規模化が必要になるため、多様な教育活動の実現に向けて、学校再編にも積極的に取り組むことを挙げております。（2）が幼稚園・こども園・保育所の目指すべき姿で、こちらは先ほどご説明した令和元年 7 月に策定された基本方針で示されているものでございまして、小学校区を基本にこども園の設置を進めるということで、次の7つの内容を目指す子ども・子育ての環境として整理されています。

29 ページからが学校施設等の整備方針ということで、ハードの面の方針になり

ます。29 ページの上側、破線で囲んである部分は、総合管理計画で施設類型別の方針としてすでに示されているものです。計画的に長寿命化を図るとか、近接する保育所・幼稚園との連携を強化するというようなことが方針として挙げられております。それを踏まえて今回の計画の整備方針として一つは「長寿命化改修／建替えの併用による効率的な施設整備」ということで、基本的には 40 年目で機能向上のための長寿命化改修を行って、80 年まで使っていくことを目指すということと、旧耐震基準の、より基準の古い、昭和 46 年以前に建てられた校舎は長寿命化しないで建て替えることで対応するということを一つの方針としています。それから二つ目が「教育環境の充実と防災機能強化」ということで、建替えや長寿命化改修時には、ICT を活用した教育に対応可能な普通教室などを整備するとか、多様な学習形態を取り入れやすい環境を整えて、教育環境の向上を図っていくことをあわせて行っていきたいとしています。また、地域住民にとっても最も身近な施設であり、応急避難所となっておりますので、避難時に必要なスペースなどについても整備して防災機能の強化を推進するということも挙げています。幼稚園・こども園・保育所については、老朽化が進んでおりますので、園児が快適に過ごせるように教育環境生活環境の向上を図るというふうにしています。それから三つ目ですけれども、「適正規模・適正配置と連動した学校施設整備の推進」ということになります。児童生徒数の将来変化に応じまして、小規模校化が進行する学校や幼稚園などには、将来的には適正規模・適正配置によって、小中一貫教育など、学校規模や教育環境の適正化に向けた検討を進めていくということを方針として整理いたしました。

31 ページは施設整備の水準でございます。建替えや長寿命化改修の際の整備レベルの目安を整理したものでございまして、実際の工事の際には、劣化状況などに応じて最終決定をしていくこととします。

第 4 章からが、第 3 章の方針を受けて今回、計画化した内容となっております。32 ページは、基本的な整備方式の考え方ということで、建築年、構造躯体、躯体以外の劣化状況の三つの観点で整備方式を分類いたしました。それから幼稚園・こども園・保育所に関しては、先ほどから申し上げています基本方針における今後の方向性を踏襲して、その内容をこちらの計画に盛り込むようにしております。その結果が 34 ページでございまして、長期の整備費用ということで、40 年間で総額 439 億円、20 年間で 195 億円で年平均 9.4 億円というふうになっております。最初の 10 年間は、小中幼稚園保育所 1 施設ずつ改修工事などを実施するということで、10 年間の年平均 6.7 億円というふうにしておりますけれども、それ以降また少し金額が上がるような形となっております。それから整備スケジュール直近 10 年ということで、次をめくっていただきますと、35 ページと 36 ページに、施設ごとに、直近 10 年間何をやるかというのを整理しております。直近 10 年は優先度の高いところから、年に 2 施設ずつ対応していくということと、トイレ改修は最初の 10 年間で全部終わるようにするという方針のもと、スケジュール化したものでございまして、極端に年度ごとの費用が突出しないように振り分けて、計画化したものというふうになっております。

そして、37 ページをご覧ください。学校の適正規模・適正配置と連動した長寿命化計画の推進というふうにございますけれども、先ほど第 2 章の「学校を取り

巻く現状と課題」で述べました通り、同じ中学校区内にあっても学校ごとに将来の予測や変化が異なっており、状況が様々だということがわかっております。また目指すべき姿で小中一貫教育というところを掲げておりますので、それを実行しやすくするためにも、適正規模・適正配置を、施設の更新時期と合わせながらやっていくということが香芝市にとって一番効率的なのではないかというようなことを書いております。そうすることで、全体的なコストを下げながら、活用していく学校に集中的に投資をして、学習環境のグレードアップ、機能向上を実現していくというようなことを目指していると整理しています。

それから第５章に関しては、今申し上げた内容を、仮に市内小中一貫を５校として集約した場合ということで、モデルのイメージ図と、それを行った場合のシミュレーションを入れているものです。それから 39 ページは、そのほかにも、管理面、運営面の見直しとして、プールの共用化ですとか、クラブ活動の外部委託とか、そういったことも考えられますので、ありとあらゆる方策の中から実行していくことで、さらに改善を図っていきたいということを、計画の中でまとめております。

最後ですけれども、第６章が計画の継続的運用方針ということで、香芝市では公共施設マネジメントを市全体で推進しているというふうに思います。現在、平成 28 年 11 月に作った総合管理計画を受けて、今年度中に個別施設計画というのが策定されると思いますので、次年度以降、今度は全体調整というところに入っていくのかなと思います。その際、下側にあります建物情報一覧みたいなもので、全体の状況を確認しながら、他の施設とも合わせて一緒に考えていくことになると思いますが、この長寿命化計画の中でそれに必要な情報はすべて整理ができておりますので、これを継続的に更新しながら、計画の運用を図っていくということをこちらの第６章でまとめている内容となっています。説明は以上になります。

〇教育総務課長

ありがとうございました。

次に、本計画のパブリックコメントでございますけれども、令和２年２月 24 日から令和２年３月８日の間において、市役所１階受付、教育総務課、総合福祉センター、市民図書館のほか、市ホームページにおいて公開し、意見を募集いたしましたところ、2 件のご意見をいただきました。主な意見といたしましては、記載内容についての問い合わせや、これまでの取り組みについてのご批判、計画を進めていくことについての危惧など肯定的でない意見が目立ちましたが、こちらにつきましては反省と受けとめさせていただきまして計画を進めて参りたいと考えております。

それでは、続きまして協議、意見交換に移って参りたいと思います。吉田市長、以後の進行をよろしくお願いいたします。

〇市長

ファインコラボレートさん、ありがとうございました。

前半が、やはり現状人口も含めた推移、部屋数、必要数の推移等々がございまして、後半については、ハード面についての説明があったかと存じます。

これよりですね、皆さん方のご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願い

したいと思います。まず各教育委員の皆様方におきましては、中学校区ごとに担当地区をお持ちいただいていると思います。私も毎年、少しの時間でありますけども学校訪問について参加させていただいたり、運動会や体育祭も、遠目でですね、参加させていただいたりという、そんな機会を通じて、学校の施設等を私も見ていますし、皆さん方もご覧になっていただいていると思います。担当地区の状況について、日頃感じておられることがありましたら、伺って参りたいなというふうに思いますので、よろしくお願いいたしたいと思います。それでは、下田の田中委員の方から、右回りで。

○田中委員
すいません。香芝中学校区を担当しておる、田中です。
ここのまとめの参考資料 5 にもありますように、もともと合併した 4 村のうちの一つということで、非常に古い学校がたくさんあります。一番新しい学校でも鎌田小学校で、本体部分で言いますともうすでに 37 年たっているのですね。昔流に言いますといわゆる鉄筋コンクリートの造りで、いわゆる耐用年数 50 年、昔よく言われた部分から言いますと、随分それに近づいていると。今回ですね、長寿命化の形でこれを最長 80 年までということになっています。それで、いろいろ見させてもらっているのですけれども、やはりその場その場で一応随分ご対応いただいてですね、施設面の改修をかけていただいているんですが、なにぶん古いということでちょっと全体的に見ますと、あっちもこっちもというふうな部分が見受けられます。だからそういう部分で、この長寿命化プラス後半で書いていただいていました再編計画も含めて、集約を図りながら、適切な投資の方に進んでいってもらえたらいいのではないかなというふうに思います。

○市長
ありがとうございました。それでは、西中の山田委員、よろしくお願いします。

○山田委員
西中校区を担当しております山田と申します。よろしくお願いいたします。
西中校区も、関屋小学校がもうとても古くなってきているのですけども、長寿命化型の改修というのは単なる修繕とかではなくて、性能向上を図るということが一番肝になってくるのではないかと考えています。さらに充実した教育活動を展開できるように、快適で十分な安全性、防災性、防犯性、あと衛生的な環境等を備えた安全安心な学校施設を作ることが一番重要だと思っています。そこをしっかりと押さえながら、今後進めていただけたらなと思います。
あと、建物とは関係ないのですが、通学路のこと、西中校区は地図見てもらってもわかるようにすごいとても広くて、晴実台やあしび方面からもたくさん来ています。特に晴実台は年々人が増えて、1 家族あたりの子供の数も非常に多い印象を受けております。中学校に上がると西中がすぐ裏なのでいいのですが、関屋小学校は校区の端っこにあるのに加えて、急な坂を上り切った場所に位置していて、晴実台の子たちは、アップダウンの激しい道のりを 40 分から 50 分通います。低学年の子どもたちは慣れない大きなランドセルを背負って、この道のりを歩くのですが、毎年

熱中症になる子もたくさんいて、あともう辛くて泣いちゃう子とかも出てきています。熱中症対策でお茶をたくさん持つようにと学校で指導があるのですけども、やっぱりそれも負担に、2本も3本ももつと負担になっているのが現状です。せめて低学年の子たちだけでも、今後スクールバスの運行が実現できたら良いなというふうに思っています。心配している保護者が下校時に、学校の前に車の長い列を作るのですけども、それもちょっと地域住民の方が、困惑されているのも現状で、それを解消するべく、スクールバスの検討などもしていただけたらありがたいなと思っております。以上です。

○市長
続いて、北中学校区。

○關野委員
北中学校区の關野です。
今ちょっと資料 11 の方を見ていたのですけど、北中と旭ケ丘小学校、幼稚園、そこは結構新しいです。20 年から 25 年ということで建物自身もまだまだ頑丈です。中に入っても、他の学校とは違ったスペースを持って、生徒はゆとりを持って校舎内を歩くことができるような、そういうような状況になっています。幼稚園では上の方に、空の広場というのですかね、それを作ったり、また小学校では、光の庭というところがあって、職員室の前にみんながそこでゆったりできると。だから、気持ちよくいられるのではないかと思います。学校の方は、やっぱり安全安心っていうのは大事なんですよね。それについては、20 年、25 年ぐらいですから、これはまあいいかなと思っています。ただ、志都美小学校は、これもかなり年数経っていますので、本来、建替えとか、そういう部分も必要じゃないかと思いますけども、将来的な学区の再編成、統廃合、それを考えていくと、人数も減ってきていますので、小規模小学校になっています。これまた後でちょっと、小中一貫のことをお聞きしたいな思っています。
香芝北中は、他の中学校もありますけれども、学校の南西の地域のところに、太陽光発電がありまして、教室の校舎棟の上にパネルがあります。そして太陽光発電をして、そしてそこに、電気を貯められる、蓄電、そういう施設にもなってます。それから他の学校もありましたけども、マンホールトイレもありまして、地域の方から見たら、ここが避難所になったら、ちょっと安心があるかなと。そういう目で、私ども学校を通るたびに、こうなってるなと、安心した状況で見ています。これから、この環境教育、それから地域とのコミュニティの場、それから避難所のどういうふうな設備をしていったらいいのかと、そういう部分も考えていった方がいいんじゃないかなと思います。
それからトイレが、私は初めて教育委員になって、公立の小学校や中学校を見ていましたら、トイレが汚いなあと思いました。私は大阪の私学におりましたけども、やはり女子校があったり、男子校があったりしますけども、化粧室っていいますかね、かなり綺麗な環境で、子どもたちが利用していると。そういう環境の中で利用していたら、勉強もできるんじゃないかと、今、トイレの改修をどんどん進めていただいてますけども、これはありがたいことだなと思ってます。昨日も、旭ケ丘小学校を卒業した子、今は二十歳の子ですけれども、ちょっと会って話をしてたんです。学校どうだった、と。そしたら、光の庭、あれは大変よかったと。だけど、トイレがやっぱり酷かった

と。何かこう、臭いが漂ってくるような、そういう感じがしたんで、あれはしんどかったですと、そんな話をしてくれました。
小学校の校舎の壁ですね、壁も見ましたけれども、ちょっと塗料がペラペラとめくれるような感じで、躯体の方までは影響はないと、そういうふうには感じてます。以上です。

〇三岡委員
失礼いたします。東中校区を担当しております三岡でございます。
私の方からは、こちらの個別施設計画を踏まえて、少しお話をさせていただきたいと思います。東中学校区は、市内でも一番狭く、真美ヶ丘ニュータウンと五位堂駅南側の五位堂地区に分かれております。こちらの計画書の 12 ページにもございますように、今後 30 年後、真美ヶ丘西小学校、真美ヶ丘東小学校はどちらも 2 クラス減、五位堂小学校では 3 クラス減。香芝東中学校では 5 クラス減と、生徒数の減少が見られるようです。
施設面では、五位堂小学校が築 51 年と市内で 3 番目に古く、今後、建替えとなった場合は周辺道路が狭いため、かなり難しい状況です。真美ヶ丘東小学校と真美ヶ丘西小学校が築 32 年、香芝東中学校は築 36 年で、ほぼ同時期であり、施設に関してはトイレ等、ほか備品などのこの細々した点を除いては、大きな不具合はないと考えておりました。しかし、参考資料の 9 ページを見ますと、やはり屋根や屋上外壁、また電気設備等はどの学校も劣化が進んでおり、今後の改修が必要とされています。今回の個別施設計画では、プールの複数校での共用化が盛り込まれておりますけれども、劣化状況の健全度は各校とも 40 点、42 点で、唯一、真美ヶ丘東小学校だけが 98 点ですので、立地的にも真美ヶ丘東小学校のプールを共用化することが可能かと考えられます。ただその際に、夏の炎天下での移動をどうするのか、また時間の確保などの課題をどうクリアしていくか、必要があると思います。
今後、40 年先までを見据えての今回の個別施設計画ですけれども、ICT や AI がさらに進み、また、個々の多様性がもっと認められるようになると、学びのスタイルもさらに多様化するのではないでしょうか。そうなった場合、学校教育は、豊かな人間性を育むことが大前提ですけれども、全員が全員、毎日学校に通うというこれまでの常識であったスタイルが変わってくる可能性もあるのではないかと考えます。また、近隣に私学や県立の中高一貫校などができるかもしれません。そうすると、今試算されている市内の子どもの数よりも、公立学校に通う子どもの数は少なくなると思います。やはりそういったことを考えますと、適正規模・適正配置という面で、小中一貫校にすることは非常に有効かと思います。その場合、東中学校区に関しては、計画書の 38 ページにありますように、香芝南小中一貫校を作るのであれば、五位堂小学校から香芝東中学へ通うよりも、五位堂、三和、鎌田の各小学校まとめる案は、通学の利便性において、非常に良いかと思います。私の方からは以上です。

〇田中委員
すいません。これ、見させていただきましてシミュレーションとして、建替え型、長寿

命化型、それから建替えと長寿命の併用型、それからシミュレーションとして、小中一貫校型と。この四つのシミュレーション、この資料の中で提示していただいています。私、委員になった最初の頃から一つ思っていたのが、同時期に建てた学校が同時期に老朽化がくると、もうあえてわざと建て替える事業をある程度分散していかないと、一時に施設に対する投資が集中してしまうと。普通、企業活動なんかで考えても、やはり計画的に立て替えるであるとかメンテナンスをするというのは、非常に大事な部分でありますので、当時、ご説明いただいた時にはそういうことも考えながらですね、計画を作っていくのが非常に大事なのではないだろうかというお話をさせていただいたことを覚えています。

で、今回単なる改修であるとか、建替えでなく、要するに小中一貫校という新たな一つの提案がある中で、これから小学校の高学年で 2022 年度からでしたかね、教科担任制も導入するというような話になっていたかなというふうに思います。そういう意味では、いわゆる将来的に、小学校と中学校が統合された 9 年間、一貫した教育を受けると、これは非常にいいことかなと。その中で例えば香中校区でありましたら、鎌田小学校の場合はこの資料を見させていただいたら、いずれ各学年 1 クラスになるようなシミュレーションが出ていますので、今で何とか2クラスが保てているような状況で、そうなるとクラス替えもあると思いますが、なかなかやっぱり1クラスになってしまうと、デメリットばかりではないとは思うんですが、やはりいろんな多様な価値観であるとか、やはりクラス替えがある方もいいのかなと。そういう部分考えましたら、少し適正規模な方へ、クラス単位の学級の体制を児童生徒数がですね、できるだけ適正な規模の方に向かうようなことは、やはり子どもたちにとって非常に大事なことではないのかなと。つい最近見た資料ではですね、大体 20 名から 35 名ぐらいの児童生徒数で、日本全体で見ると 3 分の 2 ぐらいがそれぐらいの 1 クラスあたりの児童生徒数らしく、その次の 2 割ぐらいがもう 10 人以下というような、おそらくこれ、ちょっと、いわゆる田舎の方のかなり小規模な学校だろうと思うんですけれども、そういうふうな部分を考えましたときに、小中一貫校というのは今から向かっていく。例えば小学校の英語ですね、英語の教科化であるとか、それからさっきも言いました教科担任制とか、そういう部分では非常にメリットがあるんじゃないかな。

ただ、その中で、やっぱりちょっと逆に懸念する部分としては、例えば今度、ザーッとこのシミュレーションの人数からちょっと 15 年後ぐらい、一番児童生徒数の少ないところを見させてもらったんですけれども、例えばそうなりましたときに、仮に小中一貫校になると、大体一校当たりおそらく 1000 人から 1200 人ぐらいの規模の学校になってしまうと。今の時点での予測ですから、そうなってくると例えば今の運動場の広さで間に合うのか、例えばプール共用と言ってますけれども、果たして実現可能な話なのか。それからやっぱり山田委員もおっしゃったように、今よりも確実に通学の距離が長くなる。こういう部分の対応をどうするのか。それからあとは、例えば子どもに対するアプローチの仕方を見てても、やはり小学校の先生、中学校の先生はやっぱり全く違うと思うので、こういう部分も、どういう形で職員室を運営するのかとか、おそらく仮に校長は 1 人でも、教頭は複数いるような形になるのかと、こういう部分はまた県の教育委員会の方の話にもなろうかと思うんですけれども、管理とか運営面で、よく検討しなければならない部分もあるのかなという、そういうふ

うに少し思います。以上です。

○關野委員
　はい。私も小中一貫ということをちょっと聞きたかったんです。この小中一貫を目指して、今からの長寿命化とか改修というのを進めていくのか。その辺のところをお聞きしたいところなんですが。

○教育部長
　小中一貫については、特に資料にございますシミュレーションにつきましては、あくまでもモデルということでございます。それで、先ほど来、小中一貫の良さ、それから、いろいろなデメリットというか、気を付けないといけないということがございますので、私どもとしては、あくまでもこれを全体的に、積極的に進めていくという方針が固まったわけではないのですけれども、ただ本当に必要なところについては進めていかないと、先ほど出ていましたような、学年が単学級になってしまって、子どもたちの多様な価値観に触れる機会がなくなるとか、いろんな教育活動も小さくなってしまうといったような懸念がありますので、条件が整えば、この小中一貫というか、小学校と中学校を１ヶ所に集めて、活動していくということがより望ましいのではないかというふうに考えております。先ほど田中委員からもありましたような、大体1000 人規模ぐらいの学校になるかと思いますので、施設面のことですとか、あるいは通学が長くなるところについてはバスを検討するとかいったような具体的な課題については、進めていく中では一つ一つ丁寧に対応していかないといけないのかなというふうに思っております。あくまでもこれを目指して、全部これをこういう形で進めていくというよりも、一つ一つの問題解決をした中で、小学校と中学校を一つに集めて、より効果的な教育を実現していくという、そういう思いで、ここのシミュレーションがあるのかなと。それがまた、いわゆるコストの削減になるといったことが副次的に生じるというようなところで、これを目指していきたいという、そういうふうに捉えていただいたら良いかなと。

○關野委員
　はい。私も、ちょっと中高一貫ならまだちょっとピンとくるんですけどね。小中一貫なると、なかなかそのメリット、デメリット、世間でいろいろ言われていますよね。私もちょっと、小学１年生から中学３年生まで９学年ですか。全部集めて、校長として何かこう話をするとなると、どんな言葉遣いしたらいいかなとか、そういう悩みもあります。小中別でやったりするのかとか、その辺のところ、いろいろ検討していった方がいいと思うんです。小中一貫にしたら、カリキュラムが流れていって、その９年間のカリキュラムがつくれるであろうと、そういう良さもあると思います。
　また、小学校では、例えば志都美は、規模が小さいので、縦割りのグループを作ってました。カラフルタイムですかね、月に１回か２回ですね、１年生から６年生までの生徒が何かをしていこうと。6 年生の子が、また５年生の子が、リーダーシップをとってやっていくんだと思います。そういう、小学校でリーダーシップをとれる子を、そこで作ることができると。これは中３まであった場合に、リーダーシップというのはどこで養成されるのかなと。いろんな子が中学の２年生、3 年生に頼ってしまって、

そのいろんな経験がしにくいのと違うかなと。これちょっと今、考えたことなんですけども。いろいろメリット、デメリットは考えていかなければと思います。

それから、学校の役割なんですけども、やっぱり学校は教育の場、学習の場です。ですから、安全、安心、これをやっぱり中心に置いて考えていくべきだと思います。今後、コミュニティスクール、そういう話が出てくると思うんですけども、いろんな方が学校へ来られてくる。小中一貫を頭で考えたらそのところに全部集約されてしまって、それまでのコミュニティスクールになった場合に、バリアフリーはどうなるだろうと。スロープはちゃんとできるのかと。今、いろんな小学校で、中には廃校になるところもあるかもしれません。だけど、やらなければならないところは、地域の拠点になります。だから、バリアフリーにした、また、トイレも綺麗になってきた。またスロープをしないといけないと。だからそういうものが、ちょっと後からお荷物になってこないかなと、そういうことも考えます。

それと、やっぱり学校は、避難所の機能が働くと思います。最終的に五つの校区に分けてしまうと、避難所が 5 つになってしまいます。いろんなところからそこへ行けるかな、年寄りはそこまで行けるかなと。避難所でしたらさっきのマンホールトイレ、また太陽光発電で蓄電ができるような電気施設、こういうものが必要であろうと。だけど、それまでの 30 年の間に、やっぱりそれぞれの学校がそれぞれの学校、14 校になりますか、またプラスアルファもありますけども、避難所になります。だから、そこにもある程度の設備を作っていかなければならないと。東南海地震が 30 年、50 年後に来るかもしれません。だからそこで、坂の上の雲をずっと見ながら追いかけて追いかけてやってきた、こういうふうにしようとなっているものが、足元の小さい部分で、ちょっと見過ごしてしまって、地震があった時に避難所としての対応ができなかったと、そういう心配もあります。だから拠点としてどこかに残しておくというのも必要だし、これから ICT 教育と、それから Wi-Fi 環境ですね、これも必要になってくると。各学校で LAN を通して、タブレットとかいろんなものを使って、ICT 教育機器、また Wi-Fi、そういうものを学校の方で使えるようにしなければいけない。今も LAN のところの構築ができると思いますけど、そういうものを整備していく、どこまで整備していくのかと。それはもう、プログラミング教育であれ、英語教育であれ、いろいろ必要なところあると思いますので、ちょっとこう、ややこしいなと、そういう部分があります。だけど、将来を見据えながら、今やらないといけないこと、これをしないといけないというものは必要だと思いますので、そういうところが後で無駄にならないように考える必要があるのではないかと、そういうふうに思います。

〇三岡委員

失礼いたします。先ほどからの小中一貫校についてなんですけれども、私自身、中高一貫はすごくイメージができる一方、小中一貫でなかなかピンとこない面もあったんですけれども、確かにメリットもあるかと思います。関野委員からお話が出ましたように、避難所としての学校の役割ということなのですけれども、今、香芝市でこの小中一貫校 5 校と挙げてらっしゃるのは、あくまでもモデルシミュレーションということで、いつから取りかかるとかそういうことは、今の段階で全く未定ということですよね。けれども、もしこれを進めていった場合に、その地区で校舎が、学校自体が一つで済むわけですよね。そうすると、今まで使っていた小学校なりが使わなくなりま

すよね。そうした場合にその学校を、その後どうされていくのかな、そうした場合にその学校をどうされていくのかなっていうのを非常に懸念しておりまして。そのまま置いておくわけにもいかない。でも、他の施設で利用するとなるとまたそこで維持管理費がかかってくる。そこで改修も起こってくる。その辺りがどうなるのかなと思っておりまして、小中一貫校は今、文科省も推進しているようですので他の自治体も参考にしながらまた考えていっていただければと思っております。

○田中委員
すいません。先ほど来、跡地の利用の仕方であったり、それから避難所としてのお話が委員の方から出ましたが、14 校あるのが、仮に小中一貫校にスタートして、5 つになってしまった時に、確かに近隣に大規模な避難所がないというふうになると思います。逆に言うと校区が広くなって、もしそういうことになるとすると、今までに考えられないぐらいの人がおそらく来られることもあろうかと思います。それこそ、電気も通らない、水も流れないというような本当の大規模災害の時は、学校そのものが多分運営できないようになっているだろうと思うので、あくまでも懸念というか、危惧のレベルですけれども、やはり学校は仮に避難所に利用したとしても、できるだけ早期に通常通り授業をやっぱりできるような形に戻す必要があると思います。そういう意味では、あくまでも二次的な部分として、本当に一時的な避難所としての位置付けは、全くやぶさかではないんですが、そこら辺のところもやはりいろいろ考慮に入れてですね、いろんなことを考えていかなければならないと思います。
それと、私、体協の方を長い間やらせていただいた関係でもう一つ思うのは、学校の体育館を社会体育施設として開放していただいている部分があります。これが逆に言うと、10 施設近くなくなってしまうことにも繋がると思うのです。そういう部分で、先ほど三岡委員からの意見にもありましたように、例えば跡地をどうするのか、学校のそれぞれの置かれている場所であるとか、近隣の道のインフラによっても多分いろいろ変わっていくだろうと思うのですけれども、やはり社会体育施設として利用していた体育館が一度にこれだけなくなるという部分も、いろいろと影響が出てくるのかなと思いますので、それも仮に跡地利用するという部分で、避難所含めてですね、考慮に入れていただいた方がいいのかなという思いはあります。

○關野委員
はい。私も今のような形で、避難所の方、心配していたのですけども、それを念頭にしながら、各地域でいろいろ、ここは避難の場所の拠点になると、とにかくこう、5 つになってしまうとそこにものすごい人数が殺到しますのでね。それこそ学校の再開はなかなか難しいようなことになりますよね。東南海っていうのは、30 年、40 年と震度 6 前後ぐらいの大きさの地震が来るようなのでね。だからそこまでいろいろ、今、14 ヶ所プラス県民グラウンドなどいろいろありますよね。だからそれもやっぱり充実した形にしていかなければならないだろうと、そういうふうに思います。
それと、もったいないなと思うのは、各小学校の余裕教室がもったいないなと思うのです。ただ、この余裕教室を市民に開放するのはなかなか難しいとは思います。管理の面におきましても。総合福祉センターが、耐震ですか。それでしばらく使えない、2 年ぐらい使えないんですかね。そうするとそこに入ってたボランティア団体、い

ろんな人がそういう活動をしたり練習したりとか、そういうことができないと、そういうのもありますのでね。だから、せめて、土曜日か日曜日、空き教室というか余裕教室ですかね、そういうところで、ボランティアの活動のちょっとした拠点的になればなと。上手いこと、ぽんと空いてるとは思いません。土曜日でしたら、クラブもやってますので、音を出したりなんかすると、ちょっとこう、邪魔だなと思われることもあるでしょう。また、管理の面でも非常に難しいとは思うのです。そういうような、限定的でもちょっと市民に開放する、今はまだ難しいですが、ゆくゆくはそういう形で空いてきたら、そういうふうな福祉センター的な部分で、皆がボランティア活動もできるような、そういう形も考えていただいたらなと、そんなふうに思います。

〇田中委員

これも教育委員になってからいろいろと思っていた中の一つに、確かに学校の施設、管理の責任としては校長先生が現場としてはおられると思うんですけれども、仮にその施設がもし大きくなっていくような方向が打ち出されるとすれば、施設の管理の部分、特に外部に開放する部分であるとか含めて、いわゆる施設を管理する部分と、その建物の中で教育を行う人、いわゆる学校の先生ですね、こういう部分をどこかで分けるというとちょっと表現がおかしいんですが、施設管理できる人間を学校の中に置くようなことができるようなことも、少し考えていかれたらどうかというふうな感じはします。

〇教育長

それでは私から、時間もございますので、総括的にお話をさせていただきたいと思います。

本日の議題として香芝市学校施設等長寿命化計画案についてということで、今後、莫大な財源を必要とする学校施設について、今、委員各位からご意見をいただいたわけでございますけれども、これまで吉田市長におかれましては、学校施設につきまして耐震化を始めまして、エアコンの設置、またトイレの洋式化など、環境整備に対しまして格段のご配慮を賜っております。また、来年度より学校の ICT 化につきましても、大きく前進を見ることになりました。教育委員会といたしましても、この恵まれた環境を、子供たちの学習活動、また学力向上、先生方の授業力を伸ばしていくという、そういう視点を忘れずに取り組んでいきたいと思っております。

話は戻りますけれども、本長寿命化計画においては、今後 40 年間の整備方針、また整備スケジュールなどを策定しておりますところ、施設の老朽化対策にとどまるものではなく、先ほどからいろいろ意見も出ておりますとおり、やはり学校を中心とした地域の将来ビジョンを描くものであるとも考えております。長寿命化によりまして、30 年ないし 40 年ぐらいの寿命が伸びた施設の先を見据えていかなければならないとも思っております。その時には長寿命化の何倍もの財源、これが建替え等によりまして必要となってくるのも事実でありますので、当然、先ほど、委員から出ておりました小中一貫校、何かちょっと意見を聞かせていただいておりますとこのイメージ図にもよるからか、14 校が 5 校に縮小されるというふうに思われがちですけれども、やはり小中一貫校につきましては、義務教育学校であったり、また併設型、また連携型といろいろな制度があろうかと思います。そういった中で、施設の管理面

であったり、また、運営面等、効率的な効果検証する必要もあろうかと思いますので、この小中一貫校につきましては、また、教育委員会の我々の今後の新しい課題として、先進地も含めまして、またいろいろと勉強させていただきたいと思いますので、委員の皆様方もよろしくお願いをしたいと思います。

いずれにいたしましても、教育委員会だけでは、様々、難しい課題もございますので、ぜひ吉田市長には、ご理解をいただきまして、歩調を同じにしながら、香芝市の子どもたちの教育と、そして市民の学習活動が充実するよう、これは我々も精一杯努力を、全力を挙げて取り組んで参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いをいたします。今日はどうもありがとうございました。

（午後 2 時 45 分 閉会）